第８３８号　ヤスクニ通信　２０２４年１１月１０日

日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会

＜祈りのために＞

「あなたがたも聞いているとおり、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」　（マタイによる福音書 5 章 43－45 節）

ユダヤ人にとって、隣人と隣人以外の者との区別は明確でした。しかし主イエスは限定された隣人観を否定し、自分たちに敵対する者、迫害する者のために祈るよう命じます。後の時代、教会を敵視し、迫害するであろうユダヤ人たちのために祈れと命じるのです。なぜなら、敵を愛し、敵のために祈る者こそ、主イエスの弟子にふさわしい者であり、神の子とされるからです。天におられる神は、人をユダヤ人と異邦人に区別されず、善人と悪人も区別されないのです。人はすべて神の似姿として造られたので、すべての人が神の愛の対象なのです。

もちろん、神は人の行いによっても区別されません。悪人を罰せず、善人に報いません。神の目には人はすべて罪人であり、正しい人は一人もいないのです。生まれながらの人間は、自分を好む人を愛し、自分を嫌う人を憎むのです。これが、生まれながらの人間のもつ本質です。愛と慈しみに満ちた神はこのような人間を滅ぼすのではなく、悔い改めて神に立ち帰ることを望んでおられます。御子は、神の愛の真の体現者です。神が人間を愛されたように、御子も隣人と敵の区別をせず、敵をも愛されました。

主イエスが私たち罪人とは異なるのは「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と命じただけでなく、行った点にあります。何も罪を犯していないのに十字架にかけられ、十字架上で敵のため、父なる神に執り成して祈られました。主イエスの十字架上の祈りを聞けば、「真にこの人は神の子であった」と告白せざるを得ないのです。「御子の十字架はわたしの罪の赦しのため。わたしは罪人です。このわたしをお赦しください」と真心から祈る者を神は赦してくださるだけでなく、御子を復活させたように、御子と同じように復活させてくださるのです。

「敵のために祈れ」と言われても「ああ、わたしにはできない」と諦めるのではなく、イエスをキリストとして信じ、主と仰ぐなら、聖霊によって、キリストに似る者に変えられていきます。人にはできないが神にはできる。神には何でもできないことはありません。神が人間となられ、人間の罪・重荷・負債・苦難をすべて肩代わりしてくださったのですから、ただキリストにだけ希望を置けばよいのです。「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」（ヨハネ 15：3）と主イエスは言われました。かつては人を赦せず、愛せなかった自分であっても、キリストに出会うならば、敵を赦せる人、愛せる新しい人に造り変えられるのです。それは決して孤独な歩みではなく、キリストのからだである教会につながれ、聖霊によって、キリストに似る者、神の子となる道なのです。

〈祈り〉主よ、あなたは御子を世に遣わし、十字架にかけることによって、敵をも愛することができる道を拓いてくださいました。教会が同じ道を歩むことができますように聖霊によって、導いてください。　（粂広国　函館相生教会牧師）

新シリーズ『日本キリスト教会大信仰問題』第 14 章「終わりの日」を読む（第３回）

井上　豊（広島長束教会牧師）

問２８０　終わりの日は、どのようにして来るのですか[1)]。
答　　終わりの日は、旧約における主の日の成就として、イエス・キリストによって約束されたように[2)]、主の再臨において来ます[3)]。

1) イザヤ 65：17、エレミヤ 33：14、ヨエル 2：31（新共同訳 3：4)、アモス 5：18
2) ヨハネ 6：40、14：3
3) マタイ 16：27、24：30－31、黙示 1：7

新Ｑ280－1　主の日とは何ですか？
新Ａ280－1　旧・新約聖書で、主の日について数多くの言及がありますが、そこには複数の意味があります。

旧約のオバデヤ書 15 節では、エドム人の滅亡という近い将来における神の訪れを指して用いられていますが、他のほとんどは主なる神が来られる世の終わりの日を意味しています。たとえばイザヤ書 13 章２節は

「見よ、主の日が来る
　残忍な、怒りと憤りの日が。
　大地を荒廃させ
　そこから罪人(つみびと)を絶つために。」

と語ります。

またアモス書５章 18 節では、「災いだ、主の日を待ち望む者は。主の日はお前たちにとって何か。それは闇であって、光ではない。」と、これも神の怒りによるさばきが行われる日として描かれています。

こうしたことは新約でも当然、引き継がれています。ただ不信者にとっては恐るべき日ではあっても、信者にとっては救いの完成の日、希望と喜びの日として表現される場合が多いです。

なおヨハネの黙示録１章 10 節、「ある主の日のこと、…」は日曜日を指しており、ここから「主日礼拝」などの言葉が生まれました。

新Ｑ280－2　イエス・キリストは主の日のことで何を約束して下さいましたか？
新Ａ280－2　主の日とはすなわち終わりの日です。主イエスはヨハネ福音書６章 39－40 節でご自身の任務についてこう語っておられます。「わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった方を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

新Ｑ280－3　主の再臨はいつ、どのようにして起こるのですか。
新Ａ280－3　主イエスご自身、「然り、わたしはすぐに来る。」（黙示録 22：20）とおっしゃっておられますが、「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。」（Ⅱペトロ３：８）、その時期を特定することは出来ません。「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。ただ、父だけがご存じである。」（マタイ 24：36）のです。

私たちは日本キリスト教会信仰の告白（口語文）で「神の永遠の計画」を唱えています。文語文では「経綸」という言葉を用いていました。神のみこころが歴史の中で貫徹され、歴史を完成させます。そのことが主の再臨において全世界の上に明らかになるのです。

マタイ福音書 24 章 29－31 節では、主の日が来る時、「地上のすべての民族は悲しみ」、「人の子が大いなる力と栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見る。」ことを語っています。この時の「天使たちは、…彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」ことが携挙とか携え上げとか言われることがあります。第一テサロニケ書４章 15－18 節も同様のことを語っています。

今日、「福音派」の中に、全世界に及ぶ患難と携挙（携え上げ）の関係について、クリスチャンは患難の前に携え上げられると主張している人たちがおり、その人たちと、現在イスラエルが（中川健一牧師によれば）「生存をかけて行っている」戦争を支持している人たちが、かなりの部分で重なっているようです。彼らはイスラエルを守らなければならないと考えます。そうすることで、イスラエルに主イエスが再臨され、新しい天と新しい地が出現することを信じて、待ち望んでいるのですが、自分たちが携え上げられ、救われるなら、世界が戦火に覆われたとしても良いというのでしょうか。

カルヴァンは、大洪水の時、ノアは箱舟の中で恐怖と悲嘆に打ちのめされていたと書いています。救われた自分と滅びた多くの人たちの間に何の違いがあるのか、自分だってあの人たちと大して変わらない罪人ではないかということです。

全世界にも及ぶ患難を軽く考えてはなりません。自分たちだけ救われたとしても、世界が滅びてしまうとしたら、私自身はそんなことにとても耐えられませんが、皆さんはどうでしょうか？

連載２「戦時下の教会資料発掘報告」（北海道中会ヤスクニ社会問題委員会ニュース 2024 年春号より転載）

畑知佳（遠軽教会牧師）

教会の報国実践–前線・銃後一体の奉仕の具体例–
１．礼拝における国民儀礼の実施

（前号より続き）

この時の礼拝では,皇居遥拝と君が代･国歌斉唱の間に黙祷(国君、出征將士、其遺家族、時変下祖国日本ノタメニ)」も追加されています。さらに 1 月 2 日から 7 日にかけて行われた初週祈祷会の題目には、「国家と其の為政者(全世界ノ平和並特ニ祖国日本ノタメニ)」や「伝道(全世界ノ伝道、東亜伝道、日本伝道、遠軽地方伝道ノタメニ)」が掲げられています。

1937 年 7 月 7 日の盧溝橋事件を契機に勃発した日中戦争が長期化し、やがて第二次世界大戦に拡大していく時変下に、政府は 1938 年 11 月 3 日「東亜新秩序」声明(第二次近衛声明)を出しています。これが後に「大東亜新秩序」の構想に発展していきますが、中国そして他のアジア諸国を欧米諸国の奴隷支配から解放していくための大義ある戦争という政府や軍の主張に教会も賛同して疑わず、祖国のために奉仕することが世界における日本基督教会の使命であるとして邁進していくのがこの頃からのようです。

ただ、その後すぐに国民儀礼が礼拝において常態化していったかどうかは、週報からはわかりません。以後、礼拝で国民儀礼を行ったことが記録されている週報は、特別な礼拝だけだからです。ただし、1944 年 4 月に南義子先生が赴任された後の週報は、「国民儀礼」の項目が予め印字された用紙が用いられるようになっています。そして、それが戦後の 1946 年 10 月 20 日まで使われ続けました。これによると、ある時期から毎週の礼拝で国民儀礼を礼拝の冒頭で行うようになり、少なくとも戦後しばらくはそれが続いたということなのだと推察します。しかし、いつからいつまでという正確な記録は、小会記録にも残っていません。決議なしに初め、決議なしに終わったということです。

なお、南義子先生が赴任する以前に、国民儀礼が取り入れられた特別な礼拝というのは、1940 年 2 月 11 日の紀元節礼拝、1940 年 11 月 10 日の皇紀二千六百年奉祝礼拝日、1941 年 12 月 14 日の大東亜戦々勝祈願特別礼拝式、1942 年 3 月 8 日の大詔奉戴礼拝式などです。中でも、旧宗教団体法が施行された 1940 年 4 月 1 日以降に行われた特別な礼拝は、中会あるいは大会(教団成立後は教団本部)の要請に応える形で実施されました。また大・中会の背後には文部省があるということも、滝川教会に残る歴史資料から明らかです。

以下は、真珠湾攻撃直後に行われた「大東亜戦々勝祈願特別礼拝式」の中で朗読された「文部省訓令文」と「日本基督教団統理指達文」からの引用です。(いずれも滝川教会に残る資料)

「本日米国竝ニ英国ニ対シテ戦ヲ宣セラレ辱クモ大詔ヲ渙発…宗教ノ事ニ従フ者宜シク国体ノ本義ニ徹シテ率先垂範教徒及檀信徒ヲ教導シテ相率イテ聖旨ニ応エ奉ランコトヲ期スベシ　昭和十六年十二月八日　文部大臣　橋田邦彦」

この「文部省訓令文」を受けて、富田満が各教会にあてた通達文が次のものです。

「昨昭和十六年十二月八日を以て大詔渙発…是我国の自衛竝に東洋永遠の平和確立のため止むを得ざるに出たものである。我等日本国民たる基督者は今次宣戦の意義を諒解し、国家に赤誠を捧げ国土防衛に挺身戮力するは勿論、進んで銃後奉公実践に萬全を期し遺漏なからんことを期せねばならない。殊に我等基督者はこの時報時局に際し、祖国精神界に対する重大任務を思い、能くその重責に覚醒奮起し、金剛不壊の信念を国民に与へ、堅忍不抜、寂然不動の精神を養い、以て祖国に負ふ我らの使命を完ふすべきである…昭和十六年十二月九日　日本基督教団　教団統理　富田満」

この二つの文書は遠軽教会には残っていませんが、これを受けて遠軽教会は真珠湾攻撃後の最初の主日礼拝を早速「大東亜戦々勝祈願特別礼拝」として守り、しかもその礼拝の聖書朗読と説教との間に、この二つを朗読したのです。

（次号に続く）

＜靖国関連ニュース＞

○「イスラエルは真珠湾と同じ」

米国の「親イスラエル」は、人口の 2%ほどのユダヤ系住民だけでは説明できない。もう一つの大きな要因は、米人口（約 3 億 3000 万人）の約 4 分の 1 を占めるとも言われ、宗教上の理由でイスラエルに共感する福音派などキリスト教右派の存在だ。

パレスチナ自治区ガザ地区の戦闘を巡り、米国とイスラエルの親密な関係が注目されています。米国内では若者を中心に変化を求める声があり、米大統領選への影響も指摘されます。米ユダヤ系社会の動きを中心に両国関係をひもときます。

親イスラエルのカリスマ指導者

「イスラエルがハマスを全滅させる前に停戦を求めるなんてばかげている。日本が真珠湾を攻撃した時、世界は停戦を求めただろうか。イスラエルにも勝利のために全てのことをする権利があるのだ！」

7 月 28～30 日に米首都ワシントン郊外であったキリスト教団体「イスラエルのためのキリスト教徒連合（CUFI）」の年次大会。福音派牧師のジョン・ハギー氏（84）が壇上から訴えると、数千人の聴衆は一斉に立ち上がって大拍手を送り、目に涙を浮かべる人もいた。

さらにハギー氏は「第二次世界大戦で日本の市民が多く死亡したが、『ジェノサイド』（虐殺）とは言われていない。そして、米国は完全な勝利のために日本に原爆を落とした」とも述べた。

ハギー氏の演説中、集会に紛れ込んだ親パレスチナの活動家らが「神はパレスチナを愛している」と書かれたバナーを持って何度か立ち上がり、その度にスタッフにつまみ出された。聴衆は「イスラエルは勝つ！」と繰り返し拳を突き上げながら活動家らを挑発し、会場は異様な熱気に包まれた。

文言通りに聖書を解釈

なぜキリスト教徒がユダヤ教徒の国を支援するのか。福音派は聖書を文言通り受け止め、キリストが再臨する前提としてユダヤ国家の成立が不可欠だと信じる。1948 年に建国されたイスラエルはその記述を裏付ける絶対的な存在であり、67 年に聖地エルサレムを占領すると福音派は大歓迎した。

福音派は 70～80 年代、米社会がリベラル化していく中で、政治的な活動を強めたとされる。80 年の大統領選で、保守派の共和党のレーガン大統領を熱心に支持したことでも知られる。

ハギー氏は保守地盤の南部テキサス州出身で 2006 年に CUFI を創設し、現在も代表を務める。CUFI によると、会員数は 1000 万人を超える。

ハギー氏の主張は「米国は（停戦を求める）国連から脱退すべきだ」や「パレスチナ人は（イスラエルとの）2 国家解決を望んでいない」など過激だが、多くの信者は深く共感する。福音派の 40 代男性は「我々が進むべき道を示している。イスラエルの存在を脅かす者は誰であろうと許されない」と断言した。

二人三脚でイスラエル支援

CUFI のような団体は米国内に複数あり、「キリスト教シオニスト団体」と呼ばれる。イスラエルへの支持を呼びかける啓発活動のほか、米政府へのロビー活動▽ユダヤ人のイスラエルへの移住促進▽占領地へのユダヤ人入植活動の支援――などを行う。

福音派とユダヤ系団体の連携も進んでいる。CUFI は、ユダヤ系のロビー団体「米イスラエル公共問題委員会」（AIPAC）とも協力関係にあり、CUFI 広報担当のアリ・モルゲンスタン氏は「AIPAC は我々の友人だ。目的は非常に似通っている」と強調する。イスラエルの右派政治家のネタニヤフ首相もかつて CUFI の会合でビデオ演説し、CUFI の活動を称賛した。

CUFI のようなキリスト教シオニスト団体もまた、時に協力し合いながら米国の政策をイスラエル寄りにするために活動する「複合体」の一つを成している。

一方、福音派とユダヤ教徒はイスラエル支持では一致するが、その目的や理由は異なり、いわば「同床異夢」でもある。

米国のユダヤ系聖職者団体のファリン・ボレラさん（32）は「福音派は自分たちの都合でイスラエルを支持しているに過ぎない。本質的には、ユダヤ人に同情しているわけではない」と警告。さらに、「ネタニヤフ氏のような右派政治家とキリスト教シオニスト団体は、それぞれが本質的な違いは理解しつつも、互いの目的のために利用し合っている」と指摘する。

トランプ氏の強固な支持層

CUFI の主張は共和党の保守派に極めて近い。11 月の大統領選に向けても、福音派を含むキリスト教シオニストは、トランプ氏の強固な支持層だ。トランプ氏がイスラエルに寄り添う姿勢を強く打ち出す要因の一つでもある。ハギー氏も大会でバイデン政権を念頭に、「ワシントンの指導者がイスラエルの敵の要求に屈している」と批判した。

熱狂に包まれた CUFI の大会 2 日目の最後に登壇したのは、ユダヤ系女性のミリアム・アデルソン氏（78）だった。

アデルソン氏の夫は新聞配達から「カジノ王」にまで上り詰め、トランプ氏の大口献金者だったユダヤ系米国人のシェルドン氏（21 年に死去）。シェルドン氏は、在イスラエルの米大使館のエルサレム移転やイラン核合意離脱など、トランプ政権のイスラエル寄りの政策に大きな影響を与えたとされるタカ派だ。

複数の米メディアによると、ミリアム氏も、トランプ氏の強力な支援者となっている。ミリアム氏は演説で、全米の大学で広がった親パレスチナのデモに触れ、こう締めくくった。

「私は初めて、（デモにより）ホロコーストの時にユダヤ人がどのような状況に置かれていたかを実際に見た気がする。第二次世界大戦中に、ユダヤ人を擁護した人々は大きなリスクを負っていたが、あなた方は現代におけるそんな正義の存在だ。友人を超えて、もはや兄弟姉妹だ」（毎日新聞、松井聡、24.09.27）

＜編集後記＞ 新靖国委員は芳賀、粂、塗、菅原、井上になりました。

838号ヤスクニ通信　2024年11月10日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行・編集協力 小塩海平（東京告白教会）